

General Meeting 2

2016-2 (February 11-13, 2017)

1. 2月11日土曜日、午後2時から6時（地球研 セミナー室1・2）（報告タイトルはすべて仮題）
Satoshi Murayama, Living Spaces: Local Narratives, Regional Clusters, and Communal Movements
渡邊裕一「16世紀アルプス山間地域における森林労働—帝国都市アウクスブルクの史料から」
竹本太郎「日本帝国による森林管理の量的把握」
東昇「雲ヶ畑の近世の献上鮎と近代の御猟場」
中島満大「未定」
中村治「未定」

2. 2月12日日曜日、午前9時15分から11時15分（地球研 セミナー室1・2）
溝口常俊「未定」
橘健一「未定」
渡辺和之「ネパール地震の被害状況と居住地選択の問題」
和田崇之「未定」

3. 2月12日日曜日、午後1時から5時（京都大学人文科学研究所）

第18回環境史研究会

日時：2017年2月12日（日）13:00-17:00

場所：京都大学人文科学研究所3階セミナー室4

(<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/access/access.htm>)

ワークショップ「人新世と環境史における時間」

「人新世」（anthropocene）という概念が話題になっている。人類が地球規模のインパクトを与えている地質年代として、新たに提唱されていたものである。最近では自然科学だけでなく、環境史や環境思想でも注目されている。しかし、地質年代のような自然の時間と人間の歴史学的な時間のあいだには、何らかのズレがあるように思われる。環境史における自然科学と人文社会科学のアプローチの食い違いも、こうした時間感覚のズレから生じているのではないか。「人新世」は、両者をあいだの壁を崩す概念ではないだろうか。本ワークショップでは、そもそも「人新世」とは何か、環境史における「時間」はどこへ向かうのか考えてみたい。

瀬戸口明久（京都大学）

ヒトの時間、人間の時間

林竜馬（滋賀県立琵琶湖博物館）

植生史の時間、気候変動の時間

井黒忍（大谷大学）

伝統知の継承と断絶－「歴史」の連続、復元、消失

篠原雅武（大阪大学）

人新世の思想化－チャクラバルティの「歴史の気候：4つのテーゼ」の読解から

Living Spaces Project: ラウンドテーブル（藤原辰史・島西智輝ほか、全体会議参加者全員）

4. 2月13日月曜日、午前10時から12時（京都大学数理解析研究所）

日時：2017年2月13日（月）10:00-12:00

場所：京都大学数理解析研究所1階106号室

(<http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/ja/access-01.html>)

Satoshi Murayama, Living Spaces and Mathematical-Geographical Modelling

寺尾徹「未定」

上杉和央「未定」

参加者：山田道夫・全体会議参加者並びに青木高明（一部ネット参加）